

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号：16301
 研究種目：基盤研究(C)
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22500716
 研究課題名（和文） 住まい・まちづくり学習から始める持続可能な社会づくりの実践的プログラム開発
 研究課題名（英文） Practical program development with sustainable society of housing and environmental education
 研究代表者 曲田清維 (MAGATA KIYOTADA)
 愛媛大学・教育学部・教授
 研究者番号：00116972

研究成果の概要（和文）：持続可能な社会づくりには、人々の生活基盤である住生活が安定的に営まれることが必須である。即ち、住まいやまちといった生活空間を工夫しながら「使い続ける」、良き住生活の様式を「伝え続ける」、地域や生活を担う人々と「関わり続ける」ことである。本研究では子どもの住教育認識調査結果を基にしながら、地域の行事や伝統行事によって育まれるもの（伝え関わり続ける）、伝建群における住教育（使い関わり続ける）、学校エコ改修と環境教育（使い続ける）を事例研究として積み上げ、実践的なプログラムとして提示した。

研究成果の概要（英文）：It is important for the making sustainable society that is run stably. It is important continuing using the life space, continuing conveying a traditional life style, and continuing associating with people. Housing and environmental education awareness of the student shows them.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2010年度 | 1,400,000 | 420,000 | 1,820,000 |
| 2011年度 | 1,000,000 | 300,000 | 1,300,000 |
| 2012年度 | 800,000 | 240,000 | 1,040,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,200,000 | 960,000 | 4,160,000 |

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：生活科学・生活科学一般

キーワード：住教育、持続可能な社会づくり、住まい・まちづくり

1. 研究開始当初の背景

持続可能な社会における「住まい・住生活・住環境」づくりにはスクラップアンドビルドではなく、現在あるものを可能な限り使いこなし、再生・継承しながら構築していくことが求められる。単なる環境問題の克服と言った視点のみならず、少子高齢社会における安定した社会づくりとしても欠かせない。こうした視点は本研究開始後に起こった東日本大震災からの復旧・復興も同様である。

再生・継承の課題は主体者形成にあり、学

校教育、社会教育、地域における多様な階層による学びこそがそこに連なろう。「住まい・まちづくり学習」は住まいを中心とした住環境創造の主体者形成と「もの・こと・ひと」を結びつける多彩な要素を併せ持つ。

2. 研究の目的

本研究では(1)子どもの住教育意識の把握を基本に(2)「伝え続ける」「使い続ける」「関わり続ける」ことの学習要素を事例的に検証把握し、実践的プログラムとして提示する。

3. 研究の方法

研究代表者を含む5名で議論しながら研究を進めた。(1)については高校生の家事・地域行事への参加と結びつけながら住教育意識を把握した。それを基に以下、(2)地域の行事を通して考える学校・家庭のまちづくりに対する役割(3)地域の伝統行事を伝えるための実践的プログラム(4)伝建地区の住教育の試み(5)学校エコ改修と環境教育がつくる地域再生、を個別テーマに、実践的プログラムの基礎開発を行った。

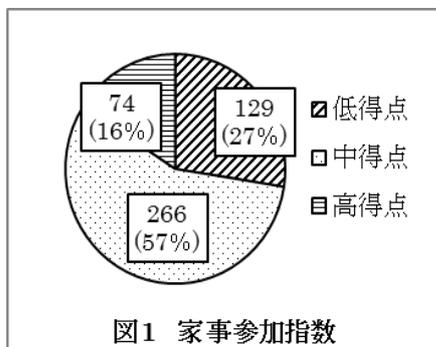
4. 研究成果

(1)高校生の家事・地域参加から見た住まい学習に対する意識

愛媛県松山市内の2高校の生徒の家事や地域行事への参加度から、住まい学習に対する意識を把握したものである。家事手伝い項目(掃除、洗濯、食事、ゴミ出し)及び地域行事への参加度を3つのグループに分けると、高グループは16%、中グループは57%、低グループ(以下G)27%である(図1)。

生徒の家事・地域行事参加度と住まい学習の各項目への興味・関心には強い関連があり、高Gは学習への興味関心も高く、低Gは低い。

当然の結果だが、家庭での家事・地域行事への参加が家庭科学習意欲にもつながっており、住まい学習の順序化や家庭での実践のあり方を検証する必要があると思われる。



(2)地域の行事が文化継承を通してまちづくりに果たす役割

地域の伝統文化に着目し、「ハレ」と「ケ」の伝統的概念や形態の受け継がれ方について、京都の祇園祭における検証と、学生への意識調査を行い、まちづくりとの関連を検討した。

①祇園祭の山鉾建ての会所飾りでは、伝統的なケからハレへの空間転換が現代の建物でも可能となるべく工夫され、祭りへの対応が維持されている。現代技術はハレへの空間転換、雰囲気作り、安全性の向上、伝統文化の保護や再現に貢献し、空間演出が受け継がれていることが確認できる。



図2 菊水鉾の橋掛り

②ハレの空間演出に関する若者の意識調査では、主に祇園祭への参加、ハレ空間演出に関する経験と意識を把握することに努めた。

祇園祭への参加(見学)は6割で経験があり、そのうち祭りにおける空間演出については、提灯や垂れ幕、店舗の装飾や音響などに気づいており、親しみを感じている

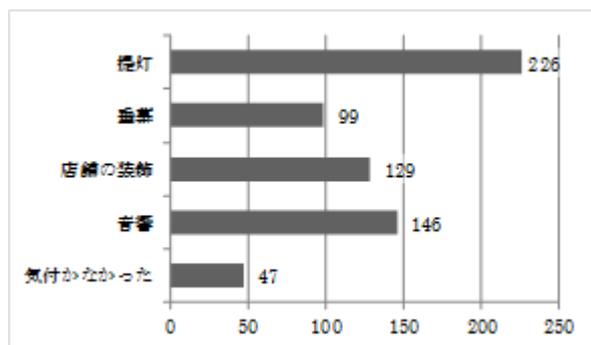


図3 まちの空間演出への気づき(単位:人)

③各人の季節行事におけるハレ空間の演出については、家庭や学校でのハレ空間演出の経験が豊富なほどその演出に関心が高く、演出を行うことに積極的であった。

④伝統行事の継承と新しい住文化の創造に関連して、地域の伝統文化としての行事は、総合学習や学級活動、道徳、委員会活動などの時間を利用して、家庭・地域とともに協働で活動することが望ましい。

保育園・幼稚園、小学校、中学校、高等学校と継続或いは連携しながら取り組むことでさらに効果的になることもわかった。今後、家庭と学校・地域との連携が重視されるなかで、学校は地域性や子どもの発達段階を考慮したハレの行事の教育活動を取り入れることで、地域の文化継承に効果的な役割を果たし、結果的に住空間の地域性、伝統を基礎に新しい住生活様式の創造につながると考えられる。

(3)地域の伝統行事を伝え続けるための体験学習プログラム実践と評価

地域特有の伝統行事や文化はそれらが地域の中で伝えられることによって地域のコミュニティが維持される側面があると考えられる。その例として「八尾木の民芸つくりもんまつり」(大阪府八尾市)を取り上げ、その学習実践結果と評価を紹介する。

①体験学習プログラムは以下であり、学生サポーターとともに、a.八尾木のつくりもんまつりの紹介、b.つくりもの探検シート作成、c.つくりものをつくってみよう、d.ふりかえりシートの作成、と進んだ。

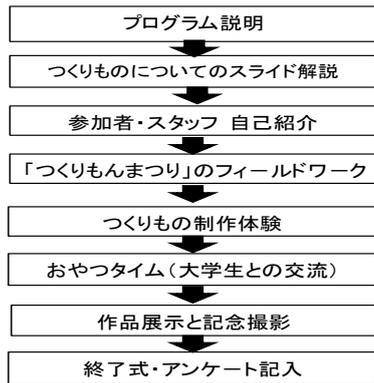


図4 体験学習プログラムの流れ

参加児童並びに大人の評価は、子どもは「友だちにもつくりもんを教えたい」、大人は「貴重な地域文化だ」など肯定的であった。②野菜などのつくりものは材料が比較的容易に入手でき、造形的な面白さもあって、学校での総合学習や地域の文化や歴史を学ぶ題材と参加しやすいものである。

その際、大学や行政、地域の高齢者、小学校が連携しながらコミュニティ形成を視野に入れ、実践することが大切である。

(4)伝建地区の民家ペーパークラフトを活用した住まい・まち学習の実践

伝統的建造物群保存地区(伝建地区)は「自然環境と一体となって歴史的に優れた住環境や町並み・景観を保全する」ために文化庁が選定するもので平成24年末で82市町村102地区が選定されている。学校教育でも家庭科や総合学習で伝建地区を対象にした住まい・まちづくり学習が散見され、ユニークな事例も見受けられる。ここでは伝建地区の住まい・町並み保全学習の実態と学習教材としてのペーパークラフトを活用した各地の実践的プログラムを紹介する。

①伝建地区に対する全国調査(当該地区にある小中学校)での授業での活用は24校と少なく、その内容は町並み散策が最も多く、マップ・絵地図づくり、絵画・スケッチなどであった。

②伝建地区に及び重文民家のペーパークラフト開発では、これまでの「甲斐の家(山梨)」等に続いて、本研究では「旧与那国家住宅：沖縄県竹富島」、「高橋家住宅：青森県黒石市」、「中村家住宅：沖縄県北中城村」等を新たに開発した。以下、沖縄県の事例に限定して紹介する。

琉球大学附属小学校では、家庭科と図工で連携しながら、「今、自分が昔の家(旧与那国家住宅)」に住むとしたらどんなふうリフォームするか」の課題設定し、グループ学習した。子どもらは作業過程で伝統的な家に見られる表座と裏座の関係をよく理解した上で様々な住み方の提案をした。

八重山農林高校では、家庭総合での授業で、旧与那国家住宅のペーパークラフトづくりのあと、気づいたことを全員で確認した。

「畳敷きの和室ばかりであること」「壁の材料」「トイレや浴室の設備」「住宅の広さ」「屋敷林や菜園などの敷地の使い方」など現代住宅との比較を通しての多面的観察となった。

③他の授業事例も含めて以下のようなことが言える。地域の住まいや町並み等の伝統文化について学び、その保存・継承のあり方を考えていくときに、学校・地域においても民家ペーパークラフトは極めて有効であることが実証できた。また伝統的民家と現代住宅のペーパークラフトを組み合わせることで、住文化の伝統を現代さらには未来にどう活かすかという課題にも対応できる。持続可能な社会づくりに向けた地域の住まい・町並み学習の強力なツールとなり得ると言えよう。

表1 八重山農林高校での授業計画

授業者：前原梨奈先生、村山誠先生

クラス：1年5組

授業内容：

第1回ペーパークラフトの組み立て

平成24年1月18日、5校時～6校時

第2回前原先生の授業「沖縄の住まい」

平成24年1月19日、6校時

第3回模型キットの組み立て

平成24年1月23日、1校時～2校時

「住まいの地方性・地域性」講義

平成24年1月23日、3校時～4校時

第4回模型キットの組み立て

平成24年1月25日

(5) 学校校舎エコ改修を契機とした環境教育の地域展開

学校校舎の省エネルギー化の改修工事をきっかけとした環境学習のプログラム化に着目し、地域に立脚した取り組みとしての校舎を教材とした環境教育プログラムの構築について紹介する。対象の学校は、環境省所管の「学校エコ改修と環境教育事業」を遂行した北海道寿都郡黒松内町立黒松内中学校である(平成17~21年指定の20校の一つ)。

①黒松内中学校での事業スケジュールは、1年目はエコ改修及び環境教育に向けた検討、2年目はエコ改修の基本・実施設計、校舎改修、環境教育プログラムの検討と実践、3年目は改修工事と環境教育のプログラム実践である。

②エコ改修を活用した学校教育での環境教育のプログラム化は以下のように進んだ。元々町内には「ブナ北限の里」が整備され、中学校では平成12年から総合的な学習の時間として「ブナの里のセミナー」に取り組んできた。それを基礎に、1年目は以前からの自然環境への取り組みに続き、改修をきっかけに居住空間、エネルギー問題としての環境へ取り組む意識付けや実施に向けた合意形成の期間である。2年目は「工事現場」を活かした環境教育プログラムを実践した。3年目にはエコ改修での特徴である「ひかりのみち」と呼ばれるガラス屋根のアトリウム空間の存在意義と活用を行い、ワークショップ等を行いながら評価まで進めた。更に改修後の4年目には元々のブナの里学習を広く環境学習に位置づけながらエネルギーや居住環境との繋がりを整理し、環境学習を自然から地域へと広がりを持つものとして体系化した。

③エコ改修と環境学習の地域波及効果は大で、ひかりのみちは地域の人々にも活用され始めている。ワンコインパーティ、新成人見学会、エコ改修ギャラリー設置等めざましい。校舎を環境学習の素材とすることにより、子どもの生活態度、成長を促す。また地域に密着した学校を環境学習の場とすることで地域住民への学習効果も期待できる。



図5 PTA懇親会のワンコインパーティ

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

- ① 曲田清維、中原優、高校生の生活習慣から見た住まい学習に対する意識、愛媛大学教育学部紀要第59巻、査読無、pp.13-24、2012.10
- ② 芝本早織、延原理恵、ハレの日における空間演出に関する調査—祇園祭での演出実態と若者の意識から文化継承を考える、京都教育大学教育実践研究紀要、No.12、査読無、pp.125-134、2012.3
- ③ 碓田智子、櫻井純子、「八尾木の民芸つくりもんまつり」を通じた地域学習の実践—学習プログラムと教材を中心に—、生活文化研究、大阪教育大学家政学研究会、Vol.50、査読無、pp.21-32、2011.9
- ④ 長谷川雅浩、松岡佳秀、黒沢和隆、北海道の公営住宅における高齢者今日中支援施策に関する調査研究、日本建築学会計画系論文集76(656)、査読有、pp.131-138、2011.1
- ⑤ 碓田智子、増田亜樹、新谷昭夫、谷直樹、歴史系博物館の特色を活かした子どものための住まい学習の実践、日本建築学会住宅系研究報告会報告集、Vol.5、査読有、pp.83-90、2010.12
- ⑥ 奥田千尋、碓田智子、小学生の家庭における昔ながらの住生活文化の継承実態、日本建築学会住宅系研究報告会報告集、Vol.5、査読有、pp.75-82、2010.12

〔学会発表〕(計6件)

- ① 碓田智子、増田亜樹、谷直樹、新谷昭夫、藤田忍、歴史系博物館の情景再現展示を住教育に活用するための学習支援の試みと評価、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.373-374、2012.9.14
- ② 曲田清維、木造校舎の保存・改修による地域力の育成—翠小学校のエコ改修及びそれに伴う住環境教育活動を通して—、日本建築学会大会学術講演梗概集(選抜)、pp.1391-1394、2011.8.23
- ③ 田中勝、藤田忍、曲田清維、建築士の地域貢献活動にみる住まい・まちづくり学習—全国の地域貢献活動団体を対象としたアンケート調査結果の分析—、日本建築学会大会学術講演梗概集(選抜)、pp.1383-1386、2011.8.23
- ④ 延原理恵、富永優、榊原典子、住環境リテラシー育成のための授業実践研究—高等学校家庭科における景観まちづくり学習—、日本建築学会大会学術講演梗概集(選抜)、pp.1399-1402、2011.8.23
- ⑤ 碓田智子、地域の伝統行事や祭りの住文化を次世代に継承するための地域学習の実践研究—「八尾木の民芸つくりもんまつり」を対象として—、日本建築学会大

会学術講演梗概集(選抜)、PP. 1387-1390、
2011. 8. 23

- ⑥ 延原理恵、浅野三奈、緑のカーテンによる教育環境改善とその効果ー京都市立小中学校を対象としたアンケート調査ー、
日本建築学会大会学術講演梗概集、
pp. 443-444、2010. 9. 11

6. 研究組織

(1) 研究代表者

曲田清維 (MAGATA KIYOTADA)
愛媛大学・教育学部・教授
研究者番号：00116972

(2) 研究分担者

碓田智子 (USUDA TOMOKO)
大阪教育大学・教育学部・教授
研究者番号：70273000

田中勝 (TANAKA MASARU)
山梨大学・教育学研究科(研究院)・教授
研究者番号：70202174

延原理恵 (NOBUHARA RIE)
京都教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：40310718

長谷川雅浩 (HASEGAWA MASAHIRO)
地方独立行政法人北海道立総合研究機構・建築研究本部北方建築総合研究所居住科学部
居住科学グループ・研究主幹
研究者番号：00462325